

対策は万全ですか？

● 雨の季節到来です

1年間に降る雨に対して、梅雨時の雨はどれぐらいの量になるのでしょうか？

梅雨の期間は年によって差が大きいので、6月と7月の降水量で比べてみましょう。(気象庁資料より)
1971年～2000年の降水量平均値・月別降水量の6月と7月の雨を合計すると、奈良は約381ミリ。これは、1年間の降水量の約4分の1以上の雨量になります。その他全国の降水量を見てみると、福岡では、約539ミリとなり、1年間の約3分の1以上の雨が降ります。大阪は約354ミリで、こちらもおよそ3分の1です。東京は約326ミリで、およそ4分の1程度。青森までいくと約185ミリ、年間の7分の1と少なくなります。



6月、7月は台風の雨が加わることもありますから、全てが梅雨前線の雨というわけではありません。ですが、西へ行くほど割合が高いということがわかります。梅雨の時期にしっかりと雨が降らないと、梅雨明け後の真夏、時には秋まで渇水に悩むこととなります。これは、梅雨の雨の割合が小さい東北地方も同じです。

豊かな雨をもたらす梅雨は、時に大雨による災害をもたらします。梅雨入りの発表は「大雨に注意」というお知らせでもあります。これから梅雨明けまで、上手に雨とつきあっていきましょう。

豪雨が近づいたら、これだけはやってください！

我が家の大雨、集中豪雨対策

屋外では



- 雨戸のガタつきやガラスのひび割れ、屋根のチェックと補修をする。
- アンテナはしっかりと固定する。
- ブロック塀や外壁のき裂は補強する。
- 物干しざお、植木鉢など飛ばされそうなものは屋内に入れるか固定する。
- プロパンガスのボンベを固定する。

- 水の流れを良くするため側溝や雨どいを掃除する。 など

屋内では



- いつでも避難できるように非常持出品(携帯ラジオ、懐中電灯、救急セット、非常食、衣類など)の用意をする。
- 避難所施設や避難経路、災害時の連絡方法などを家族全員で確認し合う。
- 適切な行動をとるため正確な気象情報などの収集をする。
- 浸水などに備えて貴重品や衣服などは高いところに移動する。 など

その他に



- 被害が想定される場合、病人や乳幼児、体の不自由な人は事前に安全な所へ避難をさせる。
- 隣近所の人たちとも災害について話し合い、互いに声を掛け合うようにしておく。 など

避難所施設の標示マークが変わりました



これまで避難所施設の標示マークとして使用していました「緑十字」が、新しい標示マーク(右写真)に変更となりました。現在までは、各市町村ごとに違うデザインを使用していました。日本工業規格JISに指定され、全国規模で統一されました。

● 雨量に注意

1時間に20ミリ以上、降りはじめたら100ミリ以上になったら要注意です。降っている雨の量を知ることが大切なことです。ひどい雨だなどと思ったら、空き缶などを外に置き、1時間に溜まる雨の量を測ってみるのも1つの方法です。

◆ 雨の降り方と被害

1時間雨量(mm)	予報用語	人の受けるイメージ	災害発生状況
10以上～20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。
20以上～30未満	強い雨	どしゃ降り	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模ながけ崩れがはじまる。
30以上～50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	山崩れ、がけ崩れが起こりやすくなる。危険地域では避難の準備が必要。都市部では下水管から雨水があふれる。
50以上～80未満	非常に激しい雨	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	都市部では、地下街に雨水が流れ込む場合がある。マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感や恐怖を感じる	雨による大規模な災害の発生するおそれが高い。厳重な警戒が必要。

● 気象注意報、警報、情報に注意

大雨などのときに発表される注意報や警報は、各地域のみならず注意を呼びかけ、災害による被害を最小限に食い止めることを目的としています。

◆ 注意報・警報・情報の種類

	種類	発表の時期
注意報	風雪、強風、大雨、大雪、濃霧、雷、乾燥、なだれ、霧、高潮、波浪、洪水、浸水など	災害が起こるおそれがある場合
警報	暴風、暴風雪、大雨、大雪、高潮、波浪、洪水、浸水など	重大な災害が起こるおそれがある場合
情報	台風、低気圧、大雨、大雪、少雨、長雨、低温、日照不足など	注意報、警報を補完する必要がある場合など

私たちは、気象情報を知ること、大雨、集中豪雨の時期や規模がある程度予測することができます。普段から気象情報に注意し、いざという時に備え、日ごろより万一のための備えをおこないましょ。

斑鳩町の避難所施設です

ご存じですか？

いざというときに困らないよう、家族みんなで災害時の役割分担を決めたり、避難所施設や避難経路を確認しておきましょう。また、避難所施設は、災害から住民の安全を確保するため避難勧告・指示をおこなった場合または避難を求める住民がいる場合は、その状況に応じて安全な避難所施設を指定し、開設します。



避難所施設	所在地	電話
①斑鳩小学校	法隆寺南1-13-46	74-1201
②斑鳩西小学校	神南2-4-25	74-3051
③斑鳩東小学校	法隆寺南2-11-5	74-1501
④斑鳩中学校	龍田北1-20-1	74-1301
⑤斑鳩南中学校	目安北3-1-77	74-5800
⑥斑鳩幼稚園	法隆寺南1-13-15	74-2353
⑦斑鳩西幼稚園	神南2-4-31	74-3981
⑧斑鳩東幼稚園	興留東1-1-16	74-5500
⑨たつた保育園	龍田1-5-1	74-2203
⑩あわ保育園	阿波3-5-33	74-1654
⑪あゆみの家	龍田南3-9-20	74-2123
⑫中央体育館	龍田南1-1-61	75-3100
⑬中央公民館	龍田南2-2-43	74-1511
⑭西公民館	龍田西4-2-25	75-3911
⑮東公民館	興留5-5-28	74-4122
⑯法隆寺国際高等学校	高安2-1-1	74-3630
⑰消防コミュニティセンター	龍田南5-7-47	75-6341
⑱いかるがホール	興留10-6-43	75-7743
⑲ふれあい交流センター いきいきの里	法隆寺北1-13-15	74-0990